



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年2月6日

上場会社名 セガサミーホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6460 URL <http://www.segasammy.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長C00 (氏名) 里見 治紀
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員財務経理本部長 (氏名) 大脇 洋一 (TEL) 03-6215-9955
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け電話会議)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	260,804	△8.7	25,623	△26.9	24,315	△31.3	13,754	△62.3
29年3月期第3四半期	285,727	16.6	35,067	189.8	35,398	179.9	36,527	462.1

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 16,118百万円(△51.9%) 29年3月期第3四半期 33,543百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	58.68	58.58
29年3月期第3四半期	155.84	155.34

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	485,062	316,222	64.7
29年3月期	521,599	311,497	59.0

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 313,944百万円 29年3月期 307,764百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
30年3月期	—	20.00	—		
30年3月期(予想)				20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	330,000	△10.1	13,000	△56.0	10,000	△65.0	5,000	△81.9	21.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 —社(社名)— 、除外 —社(社名)—

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	266,229,476株	29年3月期	266,229,476株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	31,848,575株	29年3月期	31,841,869株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	234,384,732株	29年3月期3Q	234,392,686株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は、平成30年2月7日にアナリスト向けの電話会議を開催する予定です。その説明資料については、電話会議当日に当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
(4) 追加情報	6
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

	前年同期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
売上高	285,727	260,804	△24,922	△8.7
営業利益	35,067	25,623	△9,443	△26.9
経常利益	35,398	24,315	△11,082	△31.3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	36,527	13,754	△22,773	△62.3
	円	円	円	%
1株当たり四半期純利益	155.84	58.68	△97.16	△62.3

遊技機業界におきましては、パチスロ遊技機市場において、新台の販売が低調に推移する傾向が続いております。また、パチンコ遊技機市場において、一部の実績あるシリーズ機を中心に高い評価を受けるタイトルが登場してきております。今後の市場活性化に向けては、幅広いエンドユーザーに支持される機械の開発、供給等が求められております。

エンタテインメントコンテンツ事業を取り巻く環境におきましては、スマートデバイス向けなどのデジタルゲーム市場において、国内におけるスマートフォン普及の鈍化、及び有力パブリッシャーの優位性が増していることから、より品質の高いコンテンツの供給が求められており、開発期間の長期化や運営費用が増加傾向にあります。一方、海外におきましては、アジアを中心に今後の成長が期待されております。パッケージゲーム市場におきましては、家庭用ゲーム機の普及による今後の市場拡大に期待が高まっております。PC向けゲーム市場では、Steam等のゲーム配信プラットフォームが拡大傾向にあります。アミューズメント施設・機器市場につきましては、ビデオゲームやプライズを中心に、施設稼働の向上やユーザー層拡大の兆しがみられております。

リゾート業界におきましては、訪日外国人数の伸び率は鈍化しているものの増加傾向にあり、ホテルの客室稼働率は引き続き上昇傾向にあります。また、観光立国の実現に向けて、『特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律案（IR推進法案）』が国会で成立し、公布、施行されております。

このような経営環境のもと、当第3四半期連結累計期間における売上高は2,608億4百万円（前年同期比8.7%減）、営業利益は256億23百万円（前年同期比26.9%減）、経常利益は243億15百万円（前年同期比31.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は137億54百万円（前年同期比62.3%減）となりました。

なお、平成29年12月5日に公表いたしましたとおり、当社の完全子会社であるセガサミークリエイション(株)及びその完全子会社であるSega Sammy Creation USA INC. が平成29年12月1日付で、米国ネバダ州におけるゲーミング機器製造・販売ライセンスを取得いたしました。

セグメント別の概況は以下のとおりであります。

なお、文中の各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおりません。

《遊技機事業》

	前年同期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	119,739	95,499	△24,239	△20.2
セグメント間売上高	573	551	—	—
売上高合計	120,313	96,051	△24,261	△20.2
営業利益	25,885	15,179	△10,705	△41.4

パチスロ遊技機におきましては、当第3四半期において、平成30年1月に稼働開始した『パチスロコードギアス反逆のルルーシュR2 C.C.ver.』の先行納品があり、第3四半期累計で75千台の販売となりました（前年同期は169千台の販売）。パチンコ遊技機におきましては、『ぱちんこ蒼天の拳』シリーズに新システムを搭載し新たなゲーム性を実現した『ぱちんこCR蒼天の拳 天羅』等の販売を行い、第3四半期累計で129千台の販売となりました（前年同期は111千台の販売）。

以上の結果、売上高は954億99百万円（前年同期比20.2%減）、営業利益は151億79百万円（前年同期比41.4%減）となりました。

《エンタテインメントコンテンツ事業》

	前年同期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	155,440	157,944	2,503	1.6
セグメント間売上高	768	898	—	—
売上高合計	156,209	158,842	2,633	1.7
営業利益	15,387	17,279	1,892	12.3

デジタルゲーム分野において、『ファンタシースターオンライン2』、『オルタンシア・サーガ -蒼の騎士団-』、『ぷよぷよ!!クエスト』等の既存主力タイトルを中心に各種イベント等を実施したほか、当社連結子会社の株式会社f4samuraiが開発、運営を受託している『マギアレコード 魔法少女まどか☆マギカ外伝』が堅調に推移いたしました。

パッケージゲーム分野におきましては、新作『ソニックフォース』をはじめ、『龍が如く 極2』や、PCゲームの新作『Football Manager 2018』を発売し、販売本数は1,428万本（前年同期は813万本の販売）となりました。

アミューズメント機器分野におきましては、『UFO CATCHER』シリーズ等のプライズ機の販売が好調に推移いたしました。

アミューズメント施設分野におきましては、既存のゲームセンター業態において、プライズを中心に施設オペレーションの強化に取り組んだ結果、国内既存店舗の売上高は前年同期比で102.1%となりました。

映像・玩具分野におきましては、劇場版『弱虫ペダル RE:GENERATION』等の配給収入を計上したほか、玩具において『アンパンマン』シリーズや『ディズニー&ディズニー/ピクサーキャラクターズ ドリームスイッチ』等を販売いたしました。

以上の結果、売上高は1,579億44百万円（前年同期比1.6%増）、営業利益は172億79百万円（前年同期比12.3%増）となりました。

《リゾート事業》

	前年同期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	10,547	7,359	△3,187	△30.2
セグメント間売上高	34	8	—	—
売上高合計	10,581	7,368	△3,213	△30.4
営業利益	△1,822	△1,843	△20	—

リゾート事業におきましては、国内有数のリゾート『フェニックス・シーガイア・リゾート』において、『「THE LIVING GARDEN」～森のエリア～』のオープンや、様々な集客プランを実施し、来場者数は前年同期比9%増となりました。

一方で、前期において屋内型テーマパーク事業の開発・運営会社株式の一部売却等を実施したことから、減収となりました。また、IR（統合型リゾート）事業の本格化に向けた先行費用の発生等により、前年同期比で損失幅が拡大しております。

以上の結果、売上高は73億59百万円（前年同期比30.2%減）、営業損失は18億43百万円（前年同期は営業損失18億22百万円）となりました。

海外におきましては、Paradise Co., Ltd.との合弁会社であるPARADISE SEGASAMMY Co., Ltd.（当社持分法適用関連会社）が、平成29年4月に韓国初のIR（統合型リゾート）『パラダイスシティ』をオープンし、多くのお客様にご利用いただいております。徐々に収益性が改善傾向にあります。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期におきましては、主にエンタテインメントコンテンツ事業の各事業分野が好調に推移したことから、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益が平成29年11月30日に公表した平成30年3月期通期連結業績予想を超過しておりますが、今後の販売状況等を見極める必要があることから、平成30年3月期通期連結業績予想については、現時点では変更はございません。

なお、各事業における今後の動向につきましては以下のとおりであります。

《遊技機事業》

遊技機事業におきましては、「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則及び遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則の一部を改正する規則（規則改正）」が平成30年2月1日に施行されております。また、日本電動式遊技機工業協同組合（日電協）及び日本遊技機工業組合（日工組）において規則改正を踏まえた自主規制が決定したことから、今後は改正前の規則下における許認可取得済みの機械の販売を進めるとともに、規則改正及び新たな自主規制に対応した機械の開発を進めてまいります。第4四半期のパチスロ遊技機では、当グループ初の5.9号機である『パチスロコードギアス反逆のルルーシュR2 C.C.ver.』や『パチスロ戦場のヴァルキュリア』等の販売を実施いたします。パチンコ遊技機においては、『デジハネCRA蒼天の拳天帰』等の販売を実施いたします。

《エンタテインメントコンテンツ事業》

デジタルゲーム分野におきましては、既存主力タイトルによる収益貢献に加えて、新作タイトルの投入を予定しております。平成30年1月には新作『D×2 真・女神転生 リベレーション』の配信を開始し、好調なスタートを切りました。

パッケージゲーム分野におきましては、『北斗が如く』、『戦場のヴァルキュリア4』等の新作タイトルの投入を予定しております。

アミューズメント機器分野におきましては、引き続きプライズ機の投入を行うほか、『SOUL REVERSE』、『SEGA World Drivers Championship』等の新作タイトルの投入を予定しております。

アミューズメント施設分野におきましては、引き続きプライズを中心とした施設オペレーションの強化に取り組むほか、電子マネー等の導入を進めてまいります。

映像・玩具分野におきましては、テレビシリーズ『弱虫ペダル GLORY LINE』等の制作収入の計上を予定しているほか、玩具において『アンパンマン』シリーズの新作『かまどでやこう♪ ジャムおじさんのやきたてパン工場』等の定番、主力製品の販売を予定しております。

《リゾート事業》

リゾート事業におきましては『フェニックス・シーガイア・リゾート』において、ビュッフェレストラン『パインテラス』のリニューアルオープンに加え、各種スポーツキャンプシーズンにおける集客の取り込みや施設内でお楽しみいただける施策を今後も多く実施し、引き続き新たな体験価値の創造を進め、集客強化に取り組んでまいります。

海外におきましては、来期に第1フェーズ第二次開発の施設開業を予定する『パラダイスシティ』の施設価値向上に取り組んでまいります。当社は、『パラダイスシティ』への人員の派遣等を通じ、更なるIR（統合型リゾート）開発・運営ノウハウの取得に取り組んでまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(修正再表示)

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(耐用年数の変更による影響)

当社は、平成29年3月31日開催の取締役会において、当社並びに首都圏に所在する一部のセガサミーグループの事業会社の本社を移転することを決議いたしました。これにより、前連結会計年度末において、移転に伴い利用不能となる固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更いたしました。

この変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ1,349百万円減少しております。なお、セグメント情報に与える影響については、当該箇所に記載しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	137,494	114,715
受取手形及び売掛金	44,500	33,689
有価証券	65,203	70,179
商品及び製品	18,669	7,366
仕掛品	14,838	18,529
原材料及び貯蔵品	13,933	13,886
その他	29,805	29,656
貸倒引当金	△329	△219
流動資産合計	324,115	287,803
固定資産		
有形固定資産		
土地	23,740	23,747
その他（純額）	57,869	54,554
有形固定資産合計	81,609	78,301
無形固定資産		
のれん	10,807	9,552
その他	11,352	15,188
無形固定資産合計	22,160	24,740
投資その他の資産		
投資有価証券	69,845	69,955
その他	24,607	24,998
貸倒引当金	△739	△737
投資その他の資産合計	93,713	94,216
固定資産合計	197,483	197,259
資産合計	521,599	485,062

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	45,631	20,474
短期借入金	6,354	11,684
未払法人税等	2,950	6,733
引当金	7,324	3,096
資産除去債務	303	96
その他	50,001	45,759
流動負債合計	112,567	87,846
固定負債		
社債	32,500	25,000
長期借入金	44,500	36,821
退職給付に係る負債	3,303	2,945
資産除去債務	3,735	3,822
解体費用引当金	420	420
その他	13,076	11,985
固定負債合計	97,534	80,994
負債合計	210,102	168,840
純資産の部		
株主資本		
資本金	29,953	29,953
資本剰余金	117,521	117,327
利益剰余金	207,639	211,997
自己株式	△54,769	△54,778
株主資本合計	300,345	304,499
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,041	10,941
繰延ヘッジ損益	△71	△1
土地再評価差額金	340	340
為替換算調整勘定	△4,479	△2,196
退職給付に係る調整累計額	588	362
その他の包括利益累計額合計	7,419	9,445
新株予約権	303	691
非支配株主持分	3,428	1,586
純資産合計	311,497	316,222
負債純資産合計	521,599	485,062

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	285,727	260,804
売上原価	172,077	158,113
売上総利益	113,649	102,691
販売費及び一般管理費	78,582	77,067
営業利益	35,067	25,623
営業外収益		
受取利息	231	274
受取配当金	918	939
為替差益	265	84
投資事業組合運用益	317	814
複合金融商品評価益	604	275
その他	1,016	760
営業外収益合計	3,352	3,149
営業外費用		
支払利息	734	540
持分法による投資損失	889	3,132
支払手数料	34	61
その他	1,363	721
営業外費用合計	3,021	4,456
経常利益	35,398	24,315
特別利益		
固定資産売却益	9,516	61
投資有価証券売却益	1,132	445
関係会社清算益	290	—
匿名組合清算益	1,087	—
新株予約権戻入益	801	—
解体費用引当金戻入益	5	233
その他	41	128
特別利益合計	12,875	868
特別損失		
固定資産売却損	3	0
減損損失	4,801	634
投資有価証券評価損	26	0
関係会社株式売却損	40	113
事業再編損	267	—
その他	106	25
特別損失合計	5,246	774
税金等調整前四半期純利益	43,027	24,410
法人税、住民税及び事業税	6,106	10,319
法人税等合計	6,106	10,319
四半期純利益	36,920	14,090
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	36,527	13,754
非支配株主に帰属する四半期純利益	393	335

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	826	△114
繰延ヘッジ損益	△0	—
為替換算調整勘定	△1,832	2,110
退職給付に係る調整額	127	△225
持分法適用会社に対する持分相当額	△2,499	257
その他の包括利益合計	△3,377	2,028
四半期包括利益	33,543	16,118
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	33,416	15,780
非支配株主に係る四半期包括利益	127	338

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	遊技機事業	エンタテインメント コンテンツ事業	リゾート事業			
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	119,739	155,440	10,547	285,726	0	285,727
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	573	768	34	1,376	△1,376	—
計	120,313	156,209	10,581	287,103	△1,376	285,727
セグメント利益又は損失(△)	25,885	15,387	△1,822	39,450	△4,382	35,067

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△4,382百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△4,383百万円が含まれております。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	遊技機事業	エンタテインメント コンテンツ事業	リゾート事業			
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	95,499	157,944	7,359	260,803	0	260,804
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	551	898	8	1,458	△1,458	—
計	96,051	158,842	7,368	262,262	△1,457	260,804
セグメント利益又は損失(△)	15,179	17,279	△1,843	30,615	△4,992	25,623

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△4,992百万円には、セグメント間取引消去10百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△5,002百万円が含まれております。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(耐用年数の変更による影響)

「追加情報」に記載のとおり、前連結会計年度末において、本社移転に伴い利用不能となる固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更いたしました。

この変更により、従来の方法と比べて、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益は「遊技機事業」で421百万円、「エンタテインメントコンテンツ事業」で819百万円それぞれ減少し、セグメント利益又は損失の「調整額」に含まれる全社費用は、108百万円増加しております。